

自己陶醉の世界をあたえる
機能とビジュアルの融合体

シヨーンームのエベレッツァとは、イタリア語で自己陶醉の意だ。最高の満足感をオーナーにあたえるため、エアロの性能や材質からインテリアのクオリティアップまで抜かりなく追求された新生トミーカイラのフラッグシップ、R35 GT-Rがついに披露されたのだ。

核となるボディキットは、代表の樋井サンが抱いたコンセプト「獯猛さと知性の融合」をベースに、長らくトミーカイラのコンプリートカーを手がけてきたデザイナーがカタチにしたもの。

これらのテーマを明確に表しているのがフロントバンパーだろう。純正アンダーパネルとの結合を考慮しフラットフロアを形成するアンダーディフューザーは、ウエットカーボン製とすることでリフトアップしたときだけの所有感をも刺激。そして、両端の2段インテークはデザインを優先しつつ、アウトレットを設置す

ることで、高速域で抵抗になることをおさえている。

いっぽう、リヤまわりではアンダーディフューザーを純正比で80mm延長し、ウイングのハイマウント化と後方にむけた大型化とあわせ、より高速域でのダウンフォースが稼げるように設計。また、ディフューザーとスポイラーを別体としたのは、エキゾーストにこもりやすい熱への配慮である。

戦闘的なビジュアルへの変革を行いながら、まるで初めからそうであったかのような佇まい。それは、老舗コンプリートカーメーカーならではのワザといえるだろう。

ただし、トミーカイラはR35のコンプリート販売を行わないことに決定。それは、エンジンチューンに着手していないから...というのが理由だ。

しかし、各種パーツを個別に販売することでステップアップしながら愛車を仕立てていく悦びを提供し、また、進化をつづけるチューニングシーンとのリンクを図る。これが、トミーカイラが考えるR35進化論なのである。

獯猛かつ知的な 孤高の存在



TOMMYKAIRA

EBBEREZZA R [R35]

トミーカイラジャパン ☎0565-52-8555 <http://www.TOMMYkaira.com>

リヤアンダーのサイドダクトは、トミーカイラのアイデンティティになるデザイン。そのボリュームにあわせてリヤオーバーフェンダーが設定された。なおスカート部にエッジを立てたサイドステップは純正交換タイプを採用。



空力向上を目的にアンダーディフューザーは80mm延長。あわせてアンダースポイラーにボリュームをあてた結果、リヤビューは独自の抑揚を見せつける。マフラーのサイレンサー部の排熱を考慮した中空デザインが特徴だ。

翼端部のハイマウント化とフラップを大型化したリヤウイングは、トランクスポイラーとあわせて強力なダウンフォースを獲得。マウントは純正をいかにしつつ、センターマウントを排除してルックアップも図られている。



20mmの延長により細かなディテールをあてたブレンダマわりは、バンパー本体、グリルカバー、専用スポイラー、アンダーディフューザーで構成。製品版はヘッドランプマわりやサイドロウダクトがカーボン製に変更される。



トミーカイラ 樋井 淳

「オリジナルマフラーは曲げ角とその溶接を追求したチタン製。ブレーキキットもリリースします。ほかにも、車高調やスタビリンクも発売しますし、エアロもドライカーボンウイングなどバリエーションを追求していきますよ」。



インテリアはノーマルデザインを踏襲しつつ、レッドのレザーとアルカンターラによる張り替えとドライカーボンパネルの投入により、スポーツコンフォートとシートのリカントを強調シートはカロンのG-Spec仕様だ。

